

## 第 11 回茨城県放射線技師会 機器管理士部会 研修会 開催報告

2012年1月19日(木)筑波メディカルセンターにて第11回茨城県放射線技師会機器管理士部会研修会を開催した。今回の研修会は、近年急速に進んでいるフィルムレス関連についての機器管理の現状と問題点について焦点をあてた。

### <講演内容>

#### 1、医用画像表示モニタの基礎(株式会社ナナオ 小川滋久 先生)

モニタの種類とその特徴、モニタの管理について講演された。フィルムレスは加速しているが、モニタを管理する部署が存在している施設は少ないこと、簡易的に管理するソフトウェアなどを病院側が導入する難しさについて報告。フィルムレスの際は可能な限り管理部署を設け、管理の重要性を上層部に訴えることが重要とまとめた。

#### 2、茨城県におけるモニタの管理に関するアンケート調査報告(取手医師会病院 高倉有 先生)

2010年に実施されたモニタ管理におけるアンケート調査のまとめを報告。

#### 3、フィルムレス時代のモニタ管理とフィルムレスの現状(日立総合病院 木幡篤 先生)

日立総合病院におけるモニタの管理手法とフィルムレスの現状について報告。医療用モニタと汎用モニタの選択、日常管理の手法、ソフトコピーの現状と問題点について報告を行った。

#### 4、放射線領域のメディアによる医療連携~CDを使った連携について~(日立メディコ 井桁嘉一 先生)

CDメディアを用いたソフトコピーの現状と今後の展望について講演。画像サーバーの容量は自施設の検査件数と画像取得枚数より算出し設置している施設が多いが、近年ではソフトコピーによる他院からの画像が増加しデータ量が増えているという。熊本大学では院内と院外の画像データの比率は86:14とのことで、データを取り込む際の画像の選択や画像サーバーの容量増加(ソフトコピー分)を視野に入れたほうがよいと報告した。また、ソフトコピーの中にはソフトコピーの規約に違反したものもあり、取り込みできないものもあるので注意が必要である。規約に則っているものはIHE-JのHPに掲載されているため、それらのリストから購入することを推奨するとのこと。また、取り込み違反のCDのチェックは医療情報学会より判別可能なフリーソフトをダウンロード可能とのこと。

### <最後に>

フィルムレスの導入前には管理体制を構築し、上層部に管理の重要性を訴えることが重要である。また、管理は厳しいものではなく、できる範囲のものを継続的に実施することが重要と感じた。機器管理士部会ではこのような体勢構築のサポートや管理手法考案について活動するとともに、会員にも情報発信していきたい。

